



家庭児童相談室の窓から

かつて当室を利用していた相談者から近況のご連絡をいただくことがあります。新たな問題が起きたのでまた相談したい、ということもありますが、純粋なご報告という場合もあります。

子どもさんが学校に行けずに悩んでいた保護者から、進学したとか、新しい目標を見つけてがんばっている、とお聞きすると、やはり嬉しくなるものです。

家庭の問題についての相談を受けてきた方から、実はパートナーが浮気していたことが後でわかった、というご報告を受けたこともあります。相談者は憤りを感じるなかで当室のことを思いだして電話してくれたようですが、お聴きしているわたし自身が驚い

て、思わず「慰謝料は請求しないのですか?!」と言ってしまい、後で反省しました。

ご相談が継続しているときには、相談者との距離や対応について緊張感がありますが、いったん終了していると、なつかしさもあって気持ちが緩んでしまうのかもしれない。気をつけなければならぬと思います。

似たようなことは、相談が長期にわたっている場合にもいえるようです。相談者のことや事情をよくわかっているつもりになると、知らず知らずのうちに思いこみや先入観に支配されたり、情緒的な関係が生まれそうになります。当室の相談員となってそろそろ丸十年。基本に立ち返る必要性を感じる今日この頃です。

(家庭児童相談室 相談員 砂川真澄)

家庭児童相談室のご案内
あなたの安えに…
家庭のこと、子どものこと、自分のこと

熊本学園大学付属社会福祉研究所 家庭児童相談室

家庭や家族に関する問題や、子どもさんのことについて
ご相談をお受けします。ご心配なこと、お困りなことが
ありましたら、お気軽にご利用ください。

受付 全曜日10:00~18:00 / 夜間日18:00~19:00
(12:00~13:00は昼休み)
休室日、夜間日は休室です。費用は無料です。

相談室電話 ☎ 096-364-8732

発行所 熊本学園大学付属社会福祉研究所

〒862-8680 熊本市大江2-5-1 ☎ 096-364-5161 (内線1753)

発行人 所長 豊田謙二 編集人 社会福祉研究所委員会

印刷所 コロニー印刷 ☎ 096-353-1291



■古紙再生率100%の再生紙を利用しています。
■揮発性有機化合物発生の抑止と紙のリサイクル性に優れた「大豆インキ」を使用しています。